

Close Up

クローズアップ 交通教育センター

中学生が参加できる「親子でバイクを楽しむ会」を鈴鹿サーキット交通教育センターが開催

「親子でバイクを楽しむ会（以下、親子バイク）」は Honda の交通教育センターで開催しているバイクのスクールの一つで、バイクに乗る体験を通じて親子の絆を深めてもらうことを目的としている。保護者が先生となり、バイクの操作方法や楽しさだけでなく、ルールやマナーの大切さを子どもに伝える。参加資格は自動二輪免許（小型以上）を保有している保護者とその子ども。子どもは自転車に乗れる小学生だが鈴鹿サーキット交通教育センターでは昨年から夏休みの特別企画として、中学生向け 1st(1stは初めて親子バイクに参加する人のためのコース)を開催している。



お父さんが先生になってバイクの楽しさを伝える

親子バイク中学生向け 1st は 8 月 7 日に実施され、親子 9 組が参加した。

教室でのオリエンテーションでは、この日の親子バイクを担当する増田幸一郎インストラクターが「今日は皆さんのお父さんが先生です。先生の言うことを守ってください」と受講中のルールを説明。そして、親子で相談して今日一日の目標を決める。子ども一人ひとりが前に出て「初めてなのでバイクに慣れる」「転倒しないように走り抜く」「安全に気をつけて親子で楽しむ」など目標を発表した。

オリエンテーションが終わると、外に出て準備体操で身体をほぐし、練習用のコースに移動。そこには、これから子どもたちが使うバイクが並べられている。まず、各自が使うバイクの点検。ブレーキとタイヤに異常はないか、燃料が入っているか、お父さんの指示に従って子どもが確認していく。そして、プロテクターを装着し、バイクに乗るための準備を整える。

最初はエンジンを止めた状態で子どもがバイクにまたがり、お父さんが後ろから全力で押す。バイクが動いている時のバランス感覚をつかんでもらうためだ。これを繰り返していくうちに、お父さんたちは息が上がったり、汗だくになっていた。

よいよい、エンジンをかけて、発進・停止の練習。バイクの前に立つお父さんに向かって前進し、ブレーキをかけて止まる。お父さんが立つ位置はバイクから徐々に離れていく。子どもたちは恐る恐るスピードを上げながら、目標に合わせて安全に止まるためのブレーキ操作を身につけた。子どもたちがバイクに慣れてくると、増田インストラクターが「自分が動き出す前に、左右と後方を確認することを意識してみてください。もし、ほかのバイクがいたら走り出さずに止まったままでいてください。安全だったら発進しましょう」と呼びかける。子どもが運転操作に夢中になり過ぎると、お父さんが「安全確認を忘れてるぞ!」と注意する場面もあった。

中学生の「バイクを運転したい」という気持ちに応える

昼休みをはさんで午後からはお父さんもバイクに乗り、親子と一緒にコースを走る。お父さんは後ろから子どもの運転の様子をチェックし、周回が終わるごとにアドバイス。それを受けて、子どもたちの運転はどんどんスムーズになっていく。最後に、S字やクランクのコーナー、パイロンスラロームを組み合わせたコースを走行。これまで練習した成果を親子で確認して終了となった。

愛知県から娘さん（中学 1 年生）と参加した A さんは「長男が小学生の時に参加した経験があり、親子バイクのことは知っていました。小さいうちのほうが物覚えが早いので、大人になる前にバイクの運転技術を身につけるだけでなく、安全運転の大切さを考えられる点が親子バイクの良さだと思っています」という。娘さんに感想を聞くと、「祖父と父がバイクに乗っているの、自分も運転してみたくなり、参加しました。父やインストラクターの方がやさしく教えてくれたので、運転できるようになりました。バイクを運転している人の視点を経験できたことがとても新鮮でした」と答えてくれた。

「子どもがバイクに興味を持ち始めたので、運転する楽しさを体験させてあげたかった」と話すのは岐阜県から息子さん（中学 1 年生）と参加した B さん。鈴鹿サーキットに問い合わせたところ、今年の中学生向けの開催は今回だけと聞いて参加を決めたそうだ。「中学生になると、勉強や友人との付き合いなどで親が入り込む余地が少なくなってきます。子どもとつながる手段が増えるという意味では、このような機会はたいへん有意義だと感じました。思っていた以上に子どもと一緒に行動する時間が多くてうれしかった」と感想を語った。息子さんは「最初は怖かったけど、終わる頃は楽しくなりました。バイクのことについて、もっと知りたくなったし、将来、二輪免許を取ろうと思います」と、お父さんの想いは届いたようだ。

「親子でバイクを楽しむ会 中学生向け 1st」の流れ



午前 9 時 30 分に教室でオリエンテーションがスタート



お父さんと相談して決めた「今日の目標」を発表



これから乗るバイクをお父さんと点検



胸、肩、肘、膝にプロテクターを装着



エンジンがオフの状態のバイクをお父さんが後ろから押し、途中で手を放す



発進・停止を徐々に距離を延ばしながら繰り返す



午後からは親子一緒にコースを走行。お父さんが後ろから子どもの運転の様子を見て改善点を伝える



午後 2 時、親子が互いに礼をして終了



自分が使ったバイクをきれいに磨いて車庫に戻す